

medical B.I.G. netの取り組みについて

湘南西部病院協会 会長 鈴木龍太

資料10



県の2019年度「地域医療介護総合確保基金事業のうち、病床の機能分化・連携に関する事業」

事業名: 入退院支援推進事業費

予算額: **539万円** (補助率3/4)

補助先: 湘南西部病院協会

を受け2020年度から本格始動

目的

湘南西部医療圏の地域包括ケアシステム構築

医療と介護の各施設が**受け入れ可能な患者情報**を、クラウド上で共有する

その情報に基づいて**転出転入院、転出転入所**を促進する

命名

当時湘南西部病院協会会長の丹羽明博先生の発案

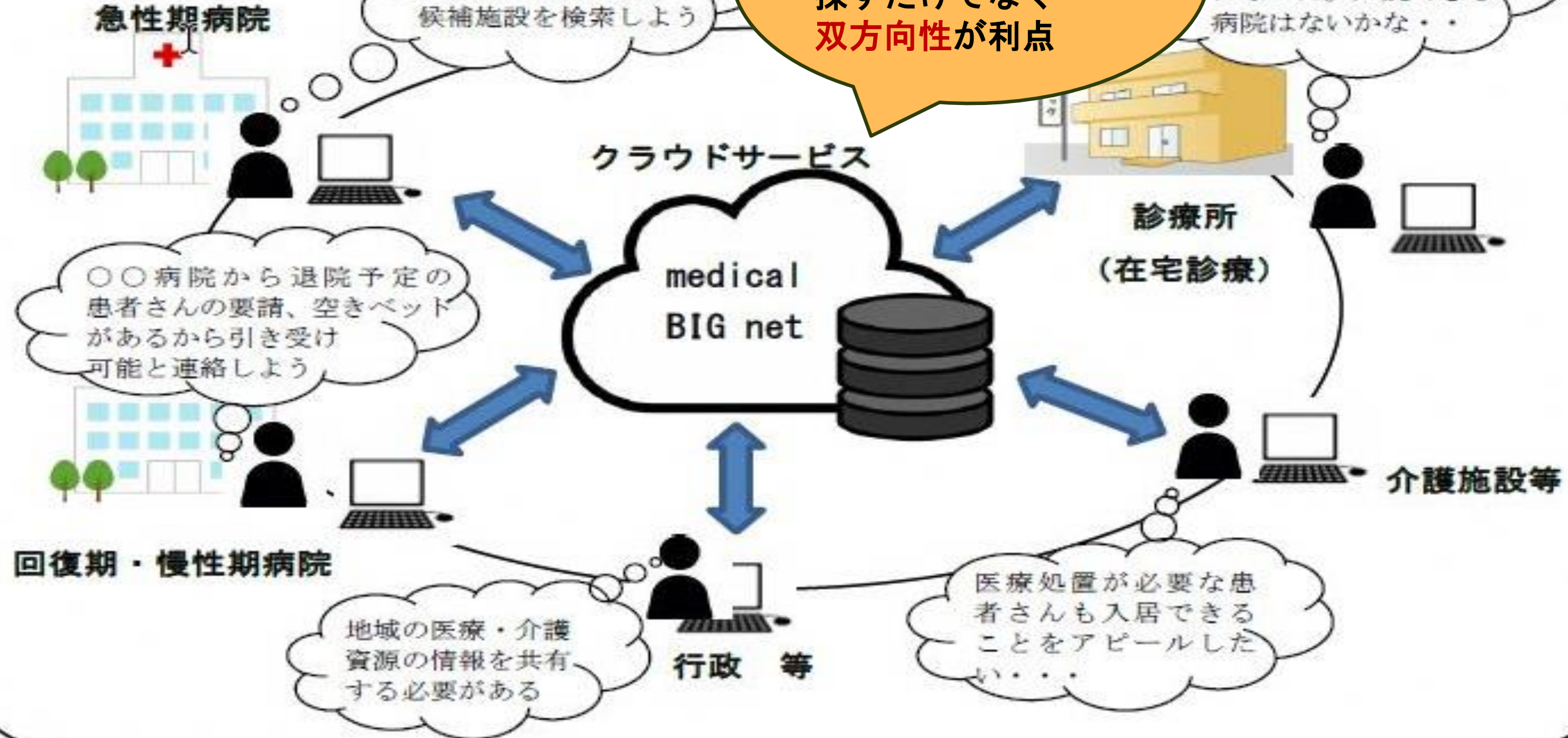
病院協会(各病院)、医師会(在宅医療)、行政(介護施設)が協力し合うことが必須

B: 病院 I: 医師会 G: 行政(介護施設)の3者を撮り

medical B.I.G. net と命名

2020年から本格始動

【システム利用イメージ】



MedicalB.I.G.netの利点



- ①BIG net 上では医療行為や条件が可能な施設の検索にとどめている。
マッチングすれば電話・Faxで詳細な情報をやり取りする。
最初に多くの施設に**問い合わせ**をするが、その**時間が大幅に短縮**できる。
- ②一度に複数の施設に打診ができ、**退院困難な患者の受け入れ先選定の一助**となる
- ③電子カルテとは連動していないので、患者個人を特定する**個人情報**
は扱わない。そのため患者の同意は必要ない
- ④簡単に自施設情報が更新できる
- ⑤**会員施設が多いほど**
業務時間の短縮ができる
患者・家族のニーズに合った転帰先が探せる
スムーズな退院支援が可能となる



新規事業 退院時共同カンファレンスへの活用 (医療・介護保険算定可)



medical B.I.G. net上で

- ①担当できるケアマネを探す
 - ②退院カンファレンスへの参加事業所の決定
 - ③システムを利用して退院カンファレンスの日程調整
 - ④病院が資料をクラウドにFAX送信
 - ⑤カンファレンス参加事業所がクラウドに資料を取りに行く
 - ⑥資料で事前確認を行う
- ここまでの準備がmedical B.I.G. net上でできる。

カンファレンスの実施
対面、
Zoom/Webex

会員数 20病院から32病院に増加 地域も拡大



2020.4

湘南西部病院協会の全20病院+平塚市医師会・秦野伊勢原医会で開始

2021.2 湘南西部二次医療圏のみ

20病院、8診療所、11入所介護施設

2022.8 参加施設の医療圏が拡大

32病院 14医科診療所 30入所介護施設

8 非入所介護事業所 その他(医師会、行政等)14施設

病院内訳 合計32病院

湘西 20

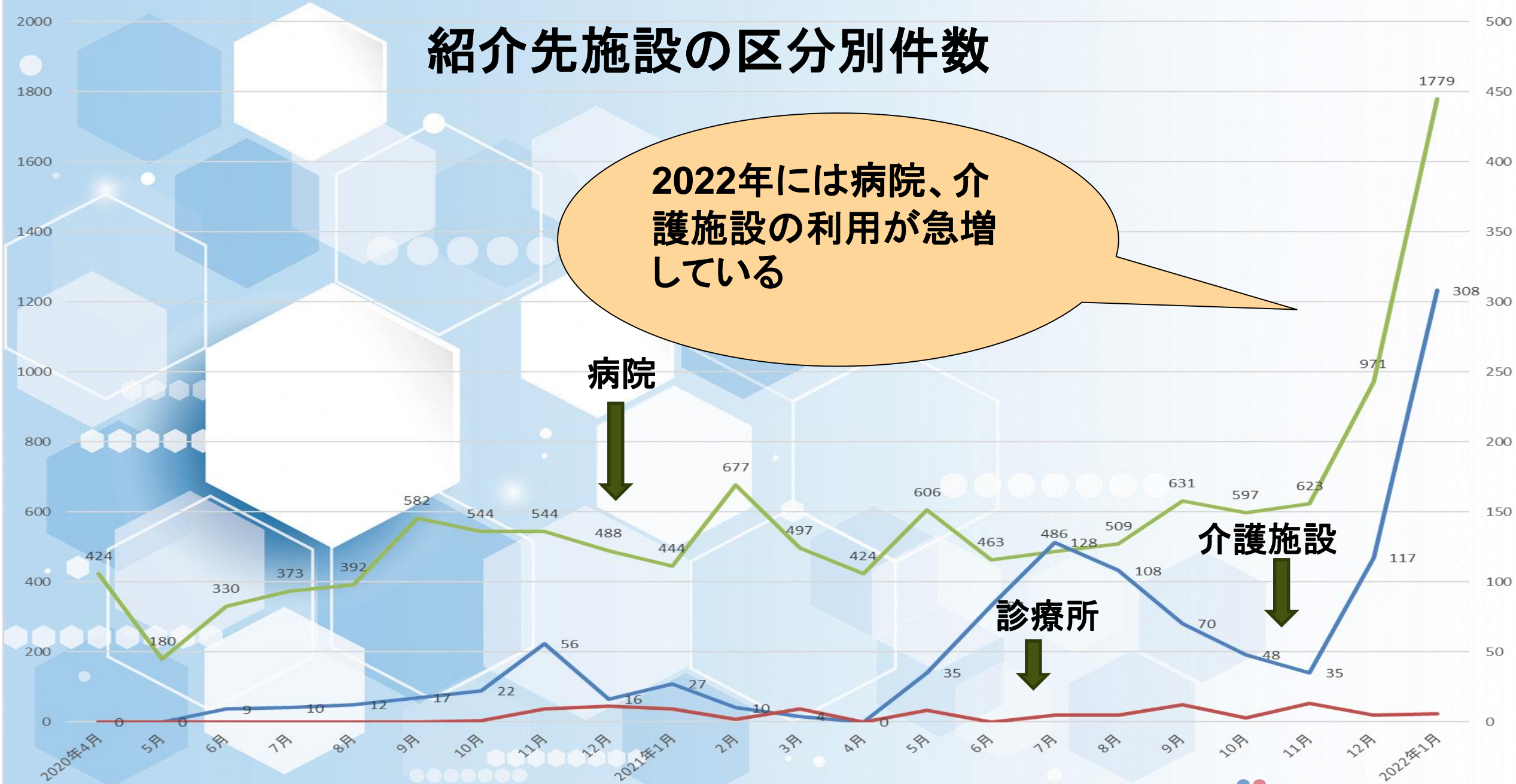
県西 6

県央 5

湘東 1

紹介先施設の区分別件数

2022年には病院、介護施設の利用が急増している





- ①病院・診療所・介護関連事業所が、住民のために協力して地域包括ケアシステムを推進していくツールとして認識されつつある
利用することで、業務改善に繋がる。
- ②会員数が増加し、湘南西部だけでなく、県央、県西、湘南東部へ広がっている。
- ③介護施設、訪問看護の会員も増え、実績も増えている。
- ④他のシステムと違い、急性期からの下り依頼だけでなく、慢性期・診療所・介護施設からの上り下り等双方向が可能であることが特徴
- ⑤新たに退院時共同カンファレンスへの活用にも利用できるもので、推奨している。